

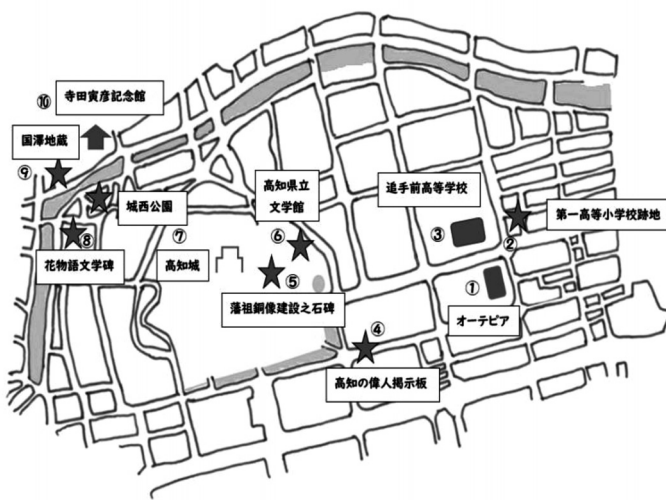
令和4年度 寺田寅彦記念館友の会 秋季研究会 報告

若林 章

令和4年10月23日(日)午後1時30分から本年度の秋季研究会を開催しました。今回は、「寺田寅彦ゆかりの地めぐり」と題してのウォーキングです。講師は『寺田寅彦の光跡を求めて』の著者でもあり、本会幹事の四宮義正様に案内をお願いしました。寅彦先生ゆかりの場所や幼少の頃の思い出が詰まっている場所で詳しく解説していただきました。

研究会当日は、お天気に恵まれ、12名の参加者は、最終目的地の寺田寅彦記念館まで有意義な時間を共有することができました。

<「寺田寅彦ゆかりの地めぐり」ルート図>



- ① 寺田寅彦の銅像(オーテピア)
- ② 高知県土佐郡第一高等小学校跡
- ③ 高知県立高知追手前高等学校(母校)
- ④ 高知の偉人掲示板
- ⑤ 藩祖銅像建設之記の石碑
- ⑥ 高知県立文学館
- ⑦ 高知城・城西公園
- ⑧ 花物語文学碑
- ⑨ 国澤地蔵
- ⑩ 寺田寅彦記念館

① 寺田寅彦の銅像 (オーテピア北東側敷地)



平成24年、当時寺田寅彦記念館友の会副会長であった宮英司氏の「銅像を建てましょう」というつぶやきから、「寺田寅彦の銅像を建てる会」が発足し、5年間の活動を経て、平成30年7月24日に除幕式が執り行われました。

銅像は、右手に椿の花を持ち、「ねえ君、ふしぎだと思いませんか」と語りかけているポーズを表現しています。

台座正面には、この言葉が刻まれており、道行く人に語りかけています。

銅像に向かって台座左側には、あの有名な「天災は忘れられたる頃来る」と刻まれ向かって台座右側には、ローマ字で

「Sukina Mono Itigo Kôhî Hana Bizin Hutokorode site Utyû-Kenbutu 1934-I-2. (好きなもの 苺 コーヒー 花 美人 懐手して宇宙見物) と刻まれています。

台座背面には、この銅像建立の記が記されています。

Sukina Mono
Itigo Kôhî Hana Bizin
Hutokorode site Utyû-Kenbutu
1934-I-2.

② 高知県土佐郡第一高等小学校跡（銅像の対角にある立体駐車場）

銅像のある交差点の対角にある立体駐車場一帯が、かつて第一高等小学校のあった場所だったようです。

寅彦先生の学校教育の始まりは、江ノ口村立尋常小学校で、明治 21 年 7 月に卒業し、その 8 月には第一高等小学校に入学しています。卒業は明治 25 年 7 月です。



③ 高知県立高知追手前高等学校（高知県尋常中学校の後身・母校）



銅像の正面から左側に望む場所には高知県立高知追手前高等学校があります。寅彦先生は、一度入試に失敗しますが、明治 25 年の再受験で 9 月にこの追手前高等学校（高知県尋常中学）に入学しています。そのときの試験の成績が優秀だったため第 2 学年に編入され、明治 29 年 7 月に首席で卒業しました。

④ 高知の偉人掲示板（NTT 西日本高知支店前）

長宗我部元親・野中兼山・山内一豊・中浜万次郎・武市瑞山（武市半平太）・山内容堂・岩崎弥太郎・坂本龍馬・中岡慎太郎・板垣退助・牧野富太郎・浜口雄幸・寺田寅彦・紀貫之・絶海中津と義堂周信・小野梓・幸徳秋水・楠瀬喜多（計 19 名）が紹介されています。その他にも、高知みらい科学館（オーテピア 5 階）やはりまや橋地下広場に土佐の偉人掲示板があり、どちらにも寅彦先生が紹介されています。



⑤ 藩祖銅像建設之記の石碑（高知市丸ノ内 1 丁目）

高知城の東にある藤並公園の森に山内一豊の騎馬像があり、その北側にこの石碑があります。そこには銅像建設の由来や除幕式の様子が記されています。

碑陰には藩祖銅像建設団体として発起人総代 12 名の氏名が刻まれており、その中には寅彦の最初の妻である夏子の父阪井重季男爵や寅彦の父である寺田利正の名があります。

⑥ 高知県立文学館（寺田寅彦記念室）

高知県立文学館にある寺田寅彦記念室は、平成 9 年 11 月に開館しました。「寺田寅彦の生涯」・「文学者寺田寅彦」・「科学者寺田寅彦」・「寅彦と芸術」・「寅彦ゆかりの人々」・「ミ

ニ企画コーナー」に分かれて解説されています。寅彦幼児期の手紙や学生時代の筆記ノートから自画像の油絵、庭の風景の水彩画、愛用の楽器や夏目漱石からの手紙など生資料がたくさん展示されています。

中でも科学者である寅彦を紹介する科学実験「渦巻きの実験」「地滑りの実験」「割れ目と生命」は必見です。



⑦ 高知城・城西公園

高知城は寅彦先生が子ども時代に遊んだ場所で、「花物語ー常山（くさぎ）の花」の背景になっており、御桜山（おさくらやま）の榎の樹の実を拾った場所でもあります。



⑧ 花物語（昼顔）文学碑（城西公園西桜馬場）

平成 2(1990)年高知ペンクラブ創立 20 周年記念として設置された紅簾石の文学碑です。「花物語ー昼顔」の冒頭部分が旧漢字・旧かな遣いで彫られています。

⑨ 国澤地蔵（高知市桜馬場 1 丁目）

由来は、国澤家の祖先が四国遍路から戻り、川の中に埋もれていたお地蔵様をお祭りしたところ、願いが適うという霊験あらたかな地蔵尊だそうです。



国澤家と寺田家は親しい仲で、国澤建雄は寅彦の中学・五高の一级先輩であり、やがて医師となって東京で寅彦を往診したこともあり、結婚の仲人も務めた人物だそうです。



⑩ 寺田寅彦記念館（寺田寅彦邸址）

寅彦先生は、この記念館で3歳から17歳まで過ごしました。記念館正門の左側の石積みの上には、牧野富太郎書による「寺田寅彦先生邸址」の碑があり、下には「天災は忘れられたる頃来る」と書かれた石が埋め込まれています。

今回訪れたそれぞれのゆかりの地では科学者であったり、文学者であったり、ときには芸術家であったりといろいろな顔を持つ寅彦先生を偲ぶとともに光跡に改めて触れることができました。